

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	なないろStudy2nd(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 4月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	指導室に広さがあるため、学習をする場所、本を読む場所、ビジョントレーニングをする場所を分けた。	利用者がどこで何をするのか、わかりやすく場所を分けた。1日の流れの表示に従って順番に取り組むようにして、内容ごとに場所も変えるようにすると、スムーズにできるようになってきている。	まだ、部屋のレイアウトを模索している途中であるため、必要に応じて変更していきたい。
2	身体に合わせた机・椅子を準備して、正しい姿勢で学習できるようにした。	以前まで、児童発達支援の利用者に身体に合わない机と椅子だったため、小さい子供用の机と椅子を準備した。一人ずつの机があるため、特別感もあり、集中して学習できるようになってきている。	利用者の身体に合わせて、小さい子ども用の机と椅子を使用するようにする。大きくなってきたら、放課後等デイサービスの利用者が使用している机と椅子に移行していく。
3	プリント学習のみでなく、遊び感覚で学習できる教材を準備した。	プリント学習が難しい利用者にはカードや絵合わせなどの遊び感覚で学ぶ課題を準備し、椅子に座る習慣をつけるようにした。	学習より遊び感覚で学ぶ機会を持ち、自然と文字や数字の知識を得られるように工夫していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	同年代のお友だちとの関わりが少ないこと。	学習がメインであるため、放課後等デイサービスの利用者が圧倒的に多い。学習面は個別になるが、みんな遊びの時に一緒に遊べるゲームが限られてしまう。	みんな遊びでは、理解しやすい遊びを選ぶようにして、自由遊びの時間を確保するようにしていく。
2	個室がないため、学習に集中できない場合がある。	学習を行う部屋とビジョントレーニングを行う場所に仕切りがなく、気になって学習に集中できない利用者がいた。また話し声が気になり、学習の手が止まってしまうこともあった。	ビジョントレーニングの場所をパーティションで分け、またビジョントレーニングの音量も下げた。児童発達支援の利用者に使っている小さい机と椅子を利用し、広さを生かして机を壁に向けて、周りが見えないように工夫する。
3			